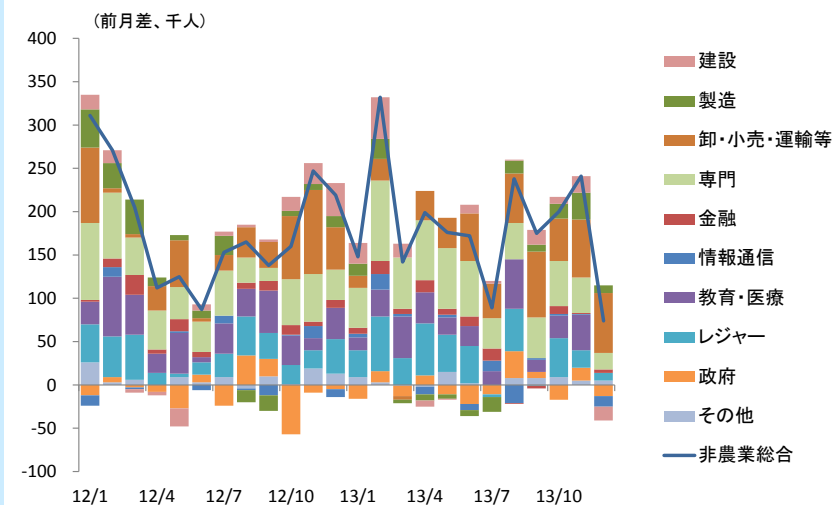


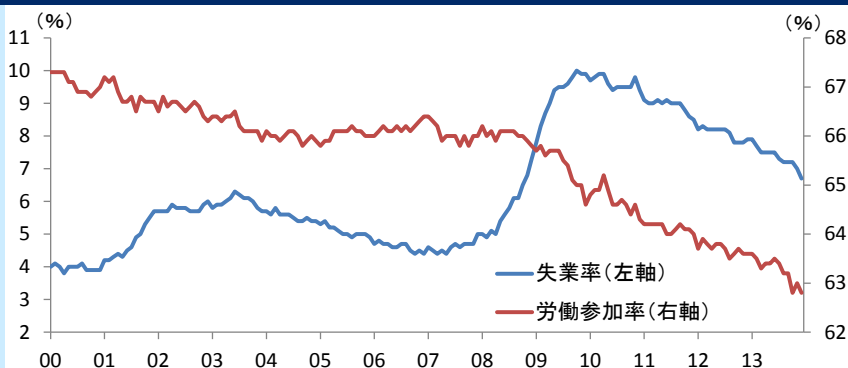
## 米国：雇用統計（2013年12月）

MRI Daily Economic Points  
January 15, 2014

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



図表2 米国失業率



資料：米国労働省

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 12月の非農業部門雇用者数は、前月差+7.4万人増となった。11月は上方修正(+20.3万人→+24.1万人)。
- 12月の内訳をみると、サービス業(同+9.0万人)では、情報通信(同▲1.2万人)、運輸・倉庫(同▲0.6万人)が減少した一方で、小売(同+5.5万人)、専門・ビジネス(同+1.9万人)、卸売業(同+1.5万人)が増加した。サービス業以外(同▲0.3万人)では、製造業(同+0.9万人)が増加した一方で、建設業(同▲1.6万人)が減少。政府部門(同▲1.3万人)も2ヶ月ぶりに減少した。
- 12月の平均労働時間(33.6時間/週)は前月(33.7時間/週)から小幅減少。平均賃金は前年比+2.1%と前月(同+2.2%)から伸びが小幅低下した。
- 12月の失業率は、6.7%(前月7.0%)と改善し、08年10月以来の水準へ低下。労働参加率は62.8%(前月63.0%)と2ヶ月ぶりに低下した。

## 基調判断と今後の流れ

- 米国の雇用市場は、緩やかな改善を続けているものの、12月は雇用者数の増加幅が前月から大きく縮小。その背景として寒波の到来が一時的に雇用者数を押し下げた可能性が指摘されている。非農業部門雇用者数の増加ペースは、13年平均の18.2万人に対し、足元3ヶ月平均は17.2万人増と、趨勢がやや鈍化している。
- 足元では、企業の雇用スタンスを表すISM雇用指数が製造業、非製造業ともに高い水準を維持しているほか、内需も堅調に推移していることから、今後の雇用市場は緩やかな改善が続くとみられる。
- ただし、政府債務の上限引上げを巡る不透明感が続けば、企業マインドが悪化しかねない点には留意が必要である。FRBの量的緩和縮小ペースはこうした雇用情勢を見極めながら慎重に決定されるだろう。